

1 単元名 きせつとあそぼう～幼稚園児（年長児）のお友達とシャボン玉遊びをしよう～

2 指導観

○ 本学級の子どもたちは、生活科の単元「きせつとあそぼう」において、学級の友達と楽しく遊ぶ経験を積み重ねてきた。そして、そこでの遊び方について友達と交流したり、楽しかったことやおもしろかったこと、うれしかったことなどを、どの子も自分なりの方法で表現したりできるようになってきた。

しかし、これまでの学校生活において、歓迎遠足での6年生との交流や校内たんけんでの2年生との交流はあるものの、自分より年少の子との交流はなく、相手の気持ちを考えたり、自分の考えを相手に分かりやすく話したりする経験は乏しい。

○ 本単元は、自分達が経験したシャボン玉遊びを通して、幼稚園児（年長児）（以下「園児」）と交流をする中で、相手のことを考えて適切な接し方ができることや積極的に人とかかわることのよさや楽しさが分かるようになることをねらいとしている。シャボン玉を使った遊びを通して園児と交流することは、学級の友達と楽しく遊ぶ経験を積み重ねてきた子どもたちにとっては、その経験を生かし、自ら進んで活動することが十分できると思われる。

また、自分より年下の園児との交流は、相手の思いや願いを考えたり、分かりやすく話したりという相手のことを大切にする意識の素地を作ることにつながるとともに、人とのかわりから自分の成長を実感する上でも価値があると考えられる。

さらに、具体的な活動や体験に対して、そこでのがんばりや喜び等を絵や言葉にしたり、友達に発表したりする表現活動を意図的に位置付けることは、気付きの質を高め、自分の変容を肯定的に自覚できるようになることを目指す上からも意義深いと考える。

○ 本単元の指導に当たっては、シャボン玉遊びを園児といっしょに行う中で、子どもたちが相手のことを考えたり、人とかかわることのよさや楽しさを理解したりしながら、これからの自分の成長への願いをもって意欲的に生活することができるようにしていきたい。

そのために、まず、これまで生活科の学習で経験した遊びを想起させながら、身の回りのもの（人工物）を使って遊びを工夫する活動としてシャボン玉遊びを導入する。そして、遊び方を工夫しながらみんなで楽しく遊んだことをもとに、もっと誰かとたくさん遊びたいという気持ちを高め、園児との交流への意欲をもたせる。

次に、園児とシャボン玉で楽しく遊ぶための計画を立てたり、準備及び練習の時間を設定したりする。そこでは、自分たちが過去にお世話をしてもらってうれしかったことなどをふり返らせながら、どのような交流になると園児が楽しい気持ちになるかを考えさせ、相手の思いや願いを考えることの大切さに気付かせていく。

そして、交流会においては、園児のことを考えた行動や声かけできるように、必要に応じて個別に支援したり、自分のよさをしっかり発揮している子は賞賛したりする。

最後に、毎時間ごとに書いてきた絵や言葉をふり返りながら、がんばった自分に気付かせていくとともに、今後の交流を楽しみにできるようにしていきたい。

3. 単元の目標

- 友達や園児と遊びを通して積極的にかかわろうとすることができる。
(関心・意欲・態度)
- 友達や園児とかかわりながら、相手のことを考えた接し方を考えて遊びをすることができる。
(思考・表現)
- うれしかったことや楽しかったことなどを絵や言葉などに表すことを通して、自分のがんばりに気付き、自分の成長への願いをもつことができる。
(気付き)

4. 計画 (全12時間)

配時	主な活動内容	主な教師の支援及び留意事項
1	1. シャボン玉遊びをする。	○「きせつとあそぼう」の学習での遊びをふり返りながら、シャボン玉を使った遊びを紹介して、シャボン玉遊びへの興味・関心をもたせる。
2	2. シャボン玉遊びの準備をする。 ・道具作り	○準備に困ったことがあれば学級全体へ広げ、解決方法をみんなで考えていくようにする。 ○試しの活動の場を設定する。
1	3. シャボン玉遊びをふり返る。	○楽しかった遊び方や、工夫したことでうまくいったこと、工夫したけどあまりうまくいかなかったことを各自しっかりふり返らせる。
1	4. 園児と楽しく遊ぶ計画を立てる。	○自分たちが幼稚園に通っていた時のこと(期待していたことや不安に思っていたことなど)を想起させ、園児が小学校に対して安心してもらえることが交流の一つの目的であることを伝える。
1	5. 招待状を作る。	○園児にも分かりやすく、また楽しい交流が思い浮かぶような招待状になるように支援する。
1	6. 園児と顔合わせをする。 ・自己紹介 ・ゲーム など	○事前に園児と交流することを伝えておき、意欲をもたせておく。 ○シャボン玉遊びの交流と同じ組み合わせになるよう、グルーピングしておく。 ○全体だけでなく、ペアを意識したゲームもする。園児にも分かりやすいルールにする。 ○交流のふり返りをする。
3	7. 交流会(シャボン玉遊び)の準備をする。 ・道具の準備 ・会の進め方の練習 ・遊び方の工夫 など	○園児にならせてみることで、どんなところを工夫すればよいか視点をもたせ活動させる。 ○楽しかったことやがんばったことを発表する中で園児のことを考えている気付きを広めていく。

1 本 時	8. 園児とシャボン玉遊びをする。	○ 1 度目の交流でかかわったペアとシャボン玉遊びを行うようにする。 ○ うまく遊びが進んでいないところがあれば、教師が手助けをしたり近くの友達に教えてもらうなどの行動を促したりする。
1	9. 本単元の学習をまとめる。 ・ 絵や言葉で	○ 毎時間のふり返りや交流会の写真や映像をもとに、がんばったことや気付いたこと、自分の成長を絵や言葉でまとめさせる。

5. 本時 平成23年10月17日(月) 第5校時 於 運動場 (雨天: 体育館)

6. 本時の目標

- 園児といっしょにシャボン玉遊びを楽しむことができる。 (関心・意欲・態度)
- 園児の思いや願いを考えた遊び方や声かけをすることができる。 (思考・表現)
- 楽しかったこと・うれしかったこと・がんばったことを表現することができる。 (気付き)

7. 本時指導の考え方

本時では、シャボン玉遊びを通して、子どもたちが園児の思いや願いを考えた接し方や声かけができたり、子どもたちと園児が楽しかったことやうれしかったこと、がんばったことを共有したりできるようにしたい。

活動を始めるにあたっては、子どもたちに前時に立てた各自のがんばりたいことを想起させ、本時学習の目的をしっかりとつかませる。そして、活動にあたって注意することや活動範囲を全体で確認した後、各ペアごとにシャボン玉遊びのために作った道具を紹介し、活動を始める。

シャボン玉遊びでは、活動がスムーズに進み、子どもたちと園児がたくさん遊ぶことができるよう、シャボン玉の液や容器を多く準備しておく。また、ペアを基本としているが困ったときに助け合えるようグループごとに机を配置する。活動の途中でよいかかわりをしていたり、楽しい遊び方の工夫をしていたりするペアがあれば賞賛するとともに、他のペアに紹介したりしていく。さらに、遊びが滞っていたり、ペアがバラバラに活動したりしていた場合は、かかわり合って遊ぶことができるような働きかけを行ったり、教師がいっしょに遊んだりするなど適宜支援を行いたい。

学習のまとめでは、いっしょに遊んで楽しかったこと、うれしかったこと、がんばったことを子どもたちに具体的に問い返しをしながらふり返り、個々の気付きを高めていく。また、園児にも感想を發表してもらうことで、人とかかわることのよさや楽しさを子どもたちと園児が共有し、今後の交流への意欲をさらに高めていきたい。

8. 準備

シャボン玉液、シャボン玉液入れ(引き出し)、机、シャボン玉遊びの道具、活動の流れ(掲示物)

9. 展開

配時	学 習 活 動 と 内 容	指 導 上 の 留 意 点 (・) と 評 価 (※)
5 分	1. 顔合わせをする。 2. 本時のめあてをつかむ。	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアを確認するとともに、あいさつを交わして楽しく活動を始められるようにする。 ・めあての確認をし、活動目的を意識できるようにする。
ペアのおともだちとしゃぼんだまあそびをして、もっとなかよくなるう。		
30 分	3. シャボン玉遊びをする。 (1) みんなで遊びの流れを確認する。 (2) ペアといっしょに遊ぶ。 (予想される子どもと園児のかかわり) <ul style="list-style-type: none"> ・よく見ててね。この道具はこうやって使うんだよ。 ・大きいシャボン玉を作りたい時は、この道具がいいよ。 ・うまくできなかつたらたずねてね。 ・遊び方がとても上手になったから、たくさんシャボン玉ができてるね。 ・小さいシャボン玉は息の吹き方を変えるといいよ。 ・いっしょに遊ぶととても楽しいね。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の範囲や注意事項を全体で確認する。 ※自分が作った道具の遊び方を園児に分かりやすく説明することができているか。 (思考・表現) <ul style="list-style-type: none"> ・十分にシャボン玉遊びができるように、液をつける容器を多く準備しておく。 ・遊び方を工夫をしているペアがあれば賞賛したり、全体に紹介したりする。 ・活動が停滞しているペアに対しては、声かけをしたり、いっしょに遊んだりしてかかわりがもてるようにする。 ※園児に対し自分から積極的に声をかけ、シャボン玉遊びをいっしょに楽しむことができているか。 (関心・意欲・態度)
10 分	4. 楽しかったことを交流し、本時学習をまとめる。 (予想される子どもの反応) <ul style="list-style-type: none"> ・いっしょにたくさん遊べてとても楽しかったです。 ・ぼくの道具を上手に使ってくれてうれしかったです。 ・ペアの友達に遊び方を一生けん命説明しました。 ・この前よりももっともっと仲良しになりました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動が停滞しているペアに対しては、声かけをしたり、いっしょに遊んだりしてかかわりがもてるようにする。 ※園児に対し自分から積極的に声をかけ、シャボン玉遊びをいっしょに楽しむことができているか。 (関心・意欲・態度) <ul style="list-style-type: none"> ・かかわり合いに関する感想を賞賛したり、問い返しをしたりすることで、人とのかかわり合いのよさへの気づきを高めていく。 ※園児の立場で考えること・楽しく遊ぶことの大切さに気付くことができているか。 (気づき) ※自分のがんばりや気づきをめあてにそって表現できているか。 (思考・表現)
	5. 次の交流について知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・2回目の交流会を3学期にすることを知らせ、園児との交流に対し意欲をもたせる。

10. 板書計画

しゃぼんだまあそび

めあて

ぺあのおともだちとしゃぼんだまあそびをして、もっとなかよくなろう。

おしえるときは・・・えがお、やさしく、大きなこえで、お手ほんをみせながら
手をもってあげる、なまえをよぶ、じぶんからはなしかける

きょうのながれ

- 1 はじめのことば
- 2 ごあいさつ
- 3 きょうのめあて
- 4 おやくそく
- 5 しゃぼんだまあそび
- 6 かんそう
- 7 おわりのことば

おやくそく

- ☆みどりがおかようちえん
- ・おにいさん、おねえさんのいうことを
ちゃんとききます。
- ☆1ねん2くみ
- ・ようちえんのおともだちをたのしませます。
 - ・こまっていたら、いっぱいたすけてあげます。
- ふえがなったら つくえにどうぐをおいて
さいしょのようにならんですわります。